

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 尼子 就都
所属 (School) 工学域 電気電子系学類
学年 (Grade) B4

留学先 (Name of overseas institution)
University of Malaya
留学期間 (study abroad period)
2019/10/6~2019/11/6

記入日 (Date) 2019/11/10

留学レポート Study Abroad Report

2019年10月6日から11月6日までの1か月間マレーシアのマラヤ大学に研究留学を行いました。今回の研究留学は、本学の「つばさ基金」の支援により実現することができました。

留学の経緯

現在行っている研究がマラヤ大学との共同研究であり、先生から「その研究室に留学に行かないか？」というお話を頂いたことがきっかけでした。海外への渡航経験がほとんどなかったため不安でしたが、研究留学という経験は今はしかできないと思い、留学することを決断しました。



研究室生活

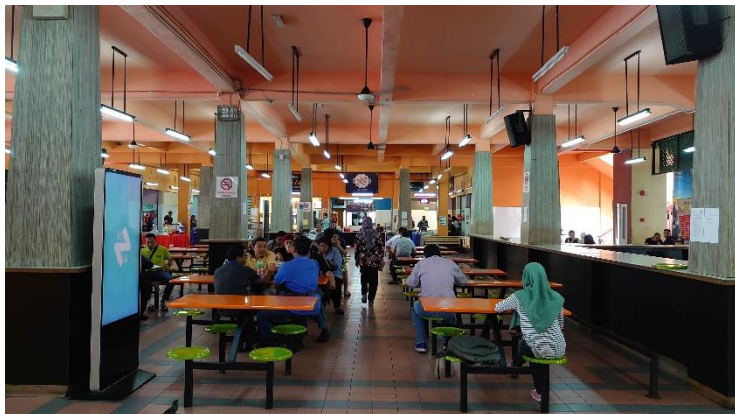
研究室の雰囲気は、静かできれいだったので集中して研究に取り組むことができました。ただ、マレーシアでは、エアコンが強力で室内は少し寒いぐらいなので、長袖が必須でした。学生は、マレーシア系、中華系、インド系のマレーシア人や、中国やパキスタンからの留学生など様々でしたが、皆さんフレンドリーに接してくれました。研究内容は、本学で研究を行っている「A daptive Resonance Theory (ART)」と呼ばれるクラスタリング手法に階層構造を加えることにより発展させることでした。進捗の報告を英語で行い、それに関するアドバイスも英語でもらうということは難しく、初めは言いたいことが本当に伝わっているのか、また、アドバイスの内容をしっかり理解できているのか不安でした。そこで、ノートとペンを用意して図や言葉を書きながら説明し、説明してもらうという方法をとりました。会話は英語ですが、図や言葉を書いてもらうことで理解できているかの確認がとりやすくなりました。また、そのノートは研究の方針の確認する際にも役立ちました。



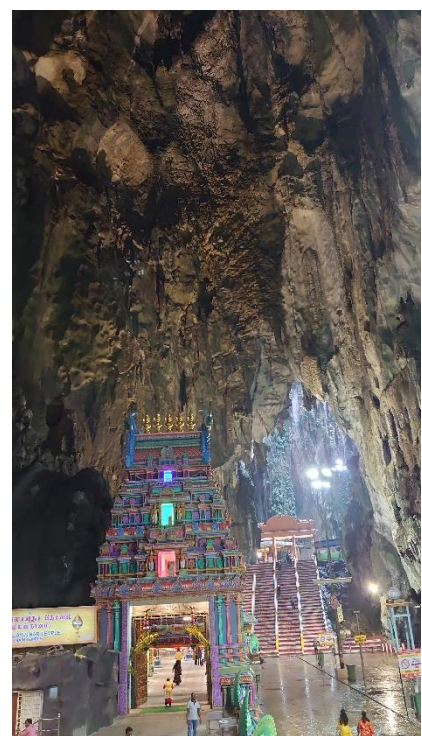
現地での生活

食べ物については、おいしかったですが辛いものが多かったという印象です。昼食は基本的に学生寮の食堂を

利用していました。マレーシア料理、インド料理、洋食のお店があり、一食 250 円くらいで食べることができました。夕食は、近くのショッピングモールなどで食べていました。ショッピングモールには、ファストフード店や日本食のお店などもあり、食事で困ることはありませんでした。また、大学から 1.5 キロくらい（バスで片道 1 リンギット、約 30 円）の所にミッドバレーメガモールというマレーシア最大級のショッピングモールがあり、イオンやユニクロ、ダイソーなど日系企業のテナントが多く入っており生活用品などもそこで購入することができました。



休日は研究室も休みだったので、クアラルンプール内の観光に行きました。イスラム教の国なので国営のモスクがあったり、イギリスの植民地であったことからヨーロッパ系の建物が残っていたり、ヒンドゥー教の聖地であるバトゥ洞窟があったりと様々な文化を見ることができ、とても興味深かったです。特にバトゥ洞窟は映画に出てくるような神秘的な雰囲気でおおすすめです。



研究留学を通して

まず、研究を進展させることができたことを嬉しく思います。ですが、それ以上に様々な文化に触れ、様々な人とコミュニケーションをとるということが本当に良い経験になりました。この経験は、今後の人生において有意義なものになると思います。また、英語によってさまざまな国籍や文化を持った人が会話をし、互いに理解しているのを見て、英語の大切さを実感することができました。英語を話すことができれば、人間関係の幅を広げたり、人生における選択肢を増やしたりすることができ、世界の見方が大きく変わると感じました。このように英語の大切さを感じ、英語力を向上させていきたいという気持ちが強くなりました。

留学を考えている皆さんへ

学生の間が留学へ行くことのできる最後のチャンスといっても過言ではないかもしれません。留学を行うのか悩んでいるなら、まずは情報収集をするという行動を起こしましょう。なんとなく頭の中で考えているだけだと時間だけが過ぎ、結局行かずに終わってしまいます。国際交流センターの方や指導教官に相談することから始めてみてください。

また、留学に行くにあたって、大きく 2 つのことで悩んでいる人が多いと思います。1 つ目は、資金面の問題です。自分自身も資金面に関しては不安に思っていました。しかし、本学の「つばさ基金」を含め様々な給付型の支援が存在します。支援を有効活用することで資金面の問題を解決することができるとも思えます。2 つ目は、語学力です。もちろん基本的な英語力は必要かもしれませんが、優れたリスニング能力やスピーキング能力がなくても、ジェスチャーや単語で意外と何とかなるものです。留学プログラムなどの基準を満たしているのなら、恐れずに挑戦してみましよう。行動あるのみです。